

(4) 社会科教育研究会 (中)

会 長 東 卓志 (八束中)

副会長 山崎 利彦 (下田中)

事務局 岡崎 恵 (八束中)

1. 研究主題

「思考力・判断力・表現力を育む社会科授業の創造」

2. 研究経過

| 実施年月日 | 研究のあらまし | 会場 | 備考 |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|-----------|
| 令和元年 5月 8日 (水) | 令和元年度 四万十市教育研究会組織総会 役員選出・研究主題設定・活動計画 | 中村南小学校 | |
| 7月 31日 (水) | 社会科教育研究会 (中) 研修会 研修Ⅰ:「司法制度・裁判員制度について」 講 師:高知地方裁判所中村支部 田野倉 真也 様 研修Ⅱ:「中村の歴史・史跡について」 講 師:四万十市観光ガイド LOILOI しまんと 廣井 健二 様 | 中村簡易裁判所 市街地 | 18名 参加 |
| 10月 25日 (金) | 指導案検討会 | 中村西中学校 | 8名 参加 |
| 11月 13日 (水) | 四万十市教育研究会 研究大会 ○研究授業 2年生 地理的分野 「中部地方ー産業を中心に考えよう」 授業者:武田 太志 (中村西中学校) 助言者:岸本 知直 様(西部教育事務所指導主事) ○研究協議 ○研修 「新学習指導要領の理解」 講 師:岸本 知直 様(西部教育事務所指導主事) | 中村西中学校 | 18名 参加 |

3. 活動内容

社会科教育研究会 研修会〔7月31日(水)〕

研 修Ⅰ:「司法制度・裁判員制度について」

講 師:高知地方裁判所中村支部 田野倉 真也 様

司法制度の仕組みを、高知地方裁判所中村支部裁判官から話を聞いた。また、裁判所内にある施設についての説明も詳しく聞くことができた。

裁判員制度では、10年のうちに裁判員となった人数は全国で約6万人に上るものの、6割を超える辞退者がいることが分かった。また、県内でも7割程度の辞退者がいるため、公正・公平な裁判が行われるよう、裁判員制度について意義や理解に努め、司法制度に関心が高まるような授業や教材研究をしなければならないと考えるよい機会となった。

研 修Ⅱ：「中村の歴史・史跡について」

講 師：四万十市観光ガイド LOLOI しまんと 廣井 健二 様

一條教房をはじめとした四万十市にかかわる歴史について、市街地(丸の内周辺)を歩きながら詳しく説明を聞いた。

江戸時代末期の旧中村支藩では、高知市内と同様に尊王攘夷運動の気運が高まっていたものの、土佐勤王党への弾圧が強まってくると、幡多では樋口真吉を筆頭に穏健派として行動していた。また、土佐藩の藩校であった行余館跡や、木戸明邸跡、幸徳秋水の墓などをめぐりながら、幕末・維新期にかけて、優れた人物を輩出していることがよくわかった。生徒たちが何気なく通う通学路にも様々な史跡が残っており、ふるさと教育を行う上で身近な教材である四万十市の歴史・史跡について理解を深めることができた。

4. 令和元年度四万十市教育研究大会

(1) 授業者より

- ・ 東海地方、中央高地、北陸地方の3つの地方を比較できるような単元構成を行った。
- ・ 資料から社会的な条件を中心に読み取らせたが、資料選びに時間がかかった。

(2) 参観者より

〈良かった点〉

- ・ 導入からめあて、活動をさせて振り返りまでをタイムマネジメントしながらしっかりと行っていた。
- ・ 活発に議論ができ、班活動もしっかりと行っていた。
- ・ 高知県と比較し、気候などの共通点はあるものの、作物はなぜ違うのだろうと問いを持たせていた。
- ・ 冠婚葬祭に関する生活体験が生徒から語られていた。
- ・ 班活動の中では、「そういうことか」と新たな気づきが生まれていた班もあった。
- ・ メモを活用し、ほかの生徒の意見を記録している生徒がいた。

〈改善点・改善策〉

- ・ 生徒が興味を持ち、取り組みたくなるようなめあての設定が必要。
- ・ 地理の授業であるので、位置や空間に着目させ、大都市に近いことなどをもっと注目させることが必要である。また、地理的な特色を考えるために地図の掲示があればよかったと思う。
- ・ 板書計画を練っておく必要がある。板書に知識的な要素が少ないと感じた。
- ・ 人の営みに着目させ、農家の立場になって考えてみてはどうか。めあてに対しての対立するような二つの意見を取り上げてみてはどうか。
- ・ 様々な資料を提供する場合は単元の最初に配っておき、本時ではどれを活用するのかを生徒自身が選択できるようにしてはどうか。
- ・ 「花き」などは分かりにくいので、言葉の意味をしっかりと理解させる。



(3) 助言者より

- ・ 生徒同士で話し合いをする場面では、活発な議論ができていた。また、授業の中でも関連する意見を多くの生徒が発言していた。
- ・ 既習事項との関連を意識して内容を精選する等、資料間の関連性を見出すことが出来ればよかった。
- ・ 生徒がどのような生活体験をしており、言葉をどの程度知っているのか、事前に小学校の教科書を見ておくなど、教科の横断的な活用が必要である。
- ・ 少ない資料でもどの場面で着目させるのか、明確にしながら思考させることが必要。
- ・ グラフや地図の位置関係などを比較しながら、共通性・特殊性を見出せるようにすることが大切である。

5. 今年度の成果と課題

(1) 成果と課題

- ・ 夏季研修会では、裁判所の仕組みや制度、市街地の歴史・史跡について理解を深めることができた。
- ・ 指導案検討会や研究授業を通じて、資料の選定・活用や、思考につなげるための発問の工夫や手立て、単元デザインの仕方などを協議することができた。
- ・ 授業改善について、各校の実践報告や情報交換などを行ったが、時間確保が十分にできなかった。

(2) 次年度に向けて

- ・ 夏季休業中の研修では、地域づくり協力隊の方に話を聞く機会を設けてはどうか。
(地域活性化への取り組みや課題など)
→ 次年度への引継ぎ事項として検討